

第一章 茶会記の基本……………11

第一節 茶会記とは

一、茶会記の内容 12

二種類で四項目

二、自会記と他会記 15

来客記録としての自会記／茶会の見聞録としての他会記／同じ茶会での比較

第二節 茶会記の成立

一、茶会記と日記 21

茶人の日記／最初の茶会記／『松屋日記』の存在／日記から茶会記へ

二、茶会記の系譜 26

茶会記は脚本か／能の番組との共通性／御成記と茶会記

第三節 茶会記と床

一、風炉・炉と床 32

町家での炉の出現／開炉・閉炉の時期／床優先への転換

二、床の飾り替え 36

初座掛物・後座花の茶会／掛物の前での飲食／床を最初に書いた茶会記

第二章 茶会の形式……………41

第一節 朝と暁の茶会

一、朝の茶会 42

圧倒的に多かった朝会／夜明け前の席入り／時刻の表現

二、朝茶事と暁の茶事 49

茶事七式の成立／暁の茶事とは／朝茶事の炭手前

第二節 昼と飯後の茶会

一、昼の茶会 54

昼会の広がり／昼の茶会と茶室の明るさ／低かった昼食の「格」

二、飯後と不時の茶会 58

飯後の茶会とは／茶会記に見る菓子茶会／不時の茶会の逸話

第三節

夜と跡見の茶会

一、夜の茶会 63

夕会と半灯／夜咄とは／待合と前茶

二、跡見の茶会 68

跡見の茶会とは／跡見の茶会記／待合と腰掛

第三章

茶会記の諸相

73

第一節

雑談と覚書

一、茶席での話題 74

清話が茶会の目的／「数寄の雑談」／利休の宗湛への雑談

二、作法と点前の覚書 79

つくばいと柄杓の置き方／点前の詳しい覚書

第二節

拝見記と名物

一、道具の拝見 83

唐物道具の重視／掛物の拝見／茶陶の拝見／道具組の洗練

二、茶会記と名物記・伝書 91

名物記と銘の形成／伝書と逸話集の形成

第三節

茶室と動座

一、茶室の変遷 97

六畳敷と四畳半／茶室の極小化／三畳台目の復活

二、動座する茶会 101

広間で料理が出る茶会／薄茶を動座する茶会／古田織部の「鎖の間」

第四節

料理と酒

一、茶会の料理 107

茶会記と料理記事／「懐石」という用語／茶会記での料理の表記

二、茶会と酒 111

料理の後で出た酒／酒次と杯／中酒と千鳥の杯

第五節

茶会の菓子

一、料理に付く菓子 116

和菓子の大成／茶会における菓子／大寄せ茶会と菓子

二、薄茶の菓子 121

薄茶の菓子の出現／惣菓子という名称／家元の好み菓子

第六節

変貌する茶会記

一、大寄せ茶会の茶会記 125

茶事と大寄せ茶会／大寄せ茶会の出現／印刷された茶会記の配布

二、茶会記の新たな展開 130

数寄者たちの茶会随筆／写真と外国語

第四章

茶会記の原文

第一節

初期の茶会記

十四屋宗伍／北向道陳／天王寺屋宗達／千宗易

第二節

織豊時代の茶会記

織田信長／山上宗二／豊臣秀吉／今井宗久／古田織部

第三節

江戸時代前期の茶会記

小堀遠州／千宗旦／片桐石州／仙叟

第四節

江戸時代中期の茶会記

後西院／予楽院近衛家熙／六閑斎／不見斎

第五節

江戸時代後期の茶会記

酒井宗雅／玄々斎／井伊直弼

第六節

近現代の茶会記

駒吉（圓能斎）／根津嘉一郎／畠山一清

あとがき

主要茶会記便覧